

活力ある
企業づくりを
応援します！

中小企業の事業創出・事業拡大は
奈良県中小企業支援センターへ！



情報発見

38
2013/March

特集

卓越した業績を生み出し続ける経営品質の向上に向けて
県内企業3社が『実効力ある経営』の認証を取得

支援概要

まずお気軽にホームページよりお問い合わせ下さい。
<http://www.nashien.or.jp>

事業創出

研究開発・連携支援

新事業・新製品創出、技術高度化のための研究開発支援として、複数企業の産産連携や企業と大学との産学連携を組成し、国等の研究開発支援事業への応募申請支援や、当該支援事業の管理法人としての事業運営を支援します。

なら発オンリーワン企業認定

国内最高水準の技術力をもつ県内企業を「なら発オンリーワン企業」に認定し、ビジネスフェアへ出展するなど県内外へPRし、ビジネスマッチングに繋がります。

近畿支援機関 コーディネータ会議

近畿圏の各支援機関のコーディネータを一同に集め、各々の情報を持ち寄ってのビジネスマッチングや技術課題解決を検討します。

なら農商工連携ファンド

農林漁業者と中小企業者が連携し、県内の農林水産物等を活用した新しい商品やサービス、生産方法及び販売方法を開発する取組に支援します。

経営全般

情報提供

メルマガ・FAX 通信やホームページを通じて皆様に各種セミナーの案内や国・県の新しい施策の紹介等、有用な情報をお届けします。

経営支援

中小企業の経営力の強化及び経営課題の解決のための経営品質向上への支援や実践講座を開催しています。また、当センターの中小企業診断士・外部専門家等が課題解決、経営力向上のお手伝いをします。

資金

設備貸与事業

中小企業の皆様が必要な設備を当支援センターが購入して一定期間貸与します。

設備資金貸付事業

創業及び経営基盤の強化を促進するため、中小企業の皆様が必要な設備を導入される際、無利子で長期設備資金を貸付します。

『なら発オンリーワン企業』を募集します!!

奈良県産業の活性化・新産業・新技術・新製品の創出に寄与することを目的とし、県内中小企業でオンリーワンのものづくり力・製品力を持ち、今後も成長が期待できる企業を「なら発オンリーワン企業」として認定し、重点支援してまいります。認定企業には当センターがその技術力を県内外に発信し、広くマッチングをコーディネートしたり、国等の補助金プロジェクト事業への申請支援等を行います。

支援内容

- なら発オンリーワン企業認定証の授与
- 認定企業紹介冊子・ホームページに掲載し、他府県へ情報発信、マッチングをコーディネートし、成長戦略実現に向け積極支援
- 全国規模のビジネスフェアへ出展し、PR、マッチングをコーディネートし、成長戦略実現に向け積極支援
- 成長戦略実現に向け、国等の委託金・補助金プロジェクト事業への申請を積極支援

【お問い合わせ】

財団法人
奈良県中小企業支援センター
TEL: 0742-36-8312

お知らせ

平成 25 年 4 月 1 日より、財団法人奈良県中小企業支援センターは公益財団法人へ移行し、名称も「公益財団法人奈良県地域産業振興センター」に変更いたします。公益財団法人として、新たに評議員会の設置、また、理事会では県内企業経営者をはじめとする外部理事を迎えた体制を整備し、今後もより多くの県内中小企業を支援し、地域産業の発展に寄与してまいります。あわせて、ホームページ URL も変更となります。新 URL は <http://www.nara-sangyoshinko.or.jp> です。

情報発見

Vol.38 2013/March

特集

卓越した業績を生み出し続ける経営品質の向上に向けて
県内企業3社が『実効力ある経営』の認証を取得

P.04

“気になる会社” 訪問記
株式会社益久染織研究所

P.08

大人の社会見学
奈良精工株式会社

P.10

心強い!県内金融機関のサポート体制

P.12

中小企業の味方!設備導入に有利な融資制度
株式会社まめいた

P.14

支援事業報告

P.15

県内企業3社が『実効力ある経営』の認証を取得

卓越した業績を生み出し続ける経営品質の向上に向けて



認証取得されたみなさん

企業経営がうまく行っているかどうかの一つの目安として“永く続く”ということが挙げられると思います。

一般的には1つの企業の寿命は30年と言われています。ということは50年～100年と続いている企業は大変良い経営をしているということになります。

何故永く続くかと言えばお客様の視点に立ってお客様の求める価値（以下“顧客価値”と表現します。）を提供し続けてきたということです。そして、その企業はこれからも顧客価値を生み出し続けます。

何故そのような事ができるかと言えば企業の仕組みがそうになっているからです。このような企業の経営の状態を“経営品質が高い”と表現します。ものづくりの世界で“品質”と言われるように経営にも品質があるという考え方に基づいています。

この経営品質を高めていくこと＝企業が永く続く秘訣というふうに対策は考えています。

公益財団法人日本生産性本部では経営品質の高い企業を表彰する制度を設けています。（1995年12月創設）その最高峰の賞が日本経営品質賞です。この賞は大企業をはじめとし2011年度までの16年間で30組織が受賞しています。

この賞への申請に際しては、50ページに及ぶ経営品質報告書の作成・提出が必要のため、経営品質への取り組みをはじめたばかりの企業にとっては壁になっている場合もあるようです。

そこで、中小企業の経営革新を支援する身近なツールとしてマネジメント強化プログラムが開発されました。

これも公益財団法人日本生産性本部が企画・運営するプログラムで中小企業の経営者を対象とし「研修受講⇒実践計画づくり⇒実践⇒成果」までの一連のプロセスを組み込んだ実践型研修会です。受講者は同財団が運営する『実効力ある経営』認証評価制度へのチャレンジができます。

また、さらに認証のレベルを上げて行けば日本経営品質賞へのチャレンジも期待できます。

今回、この取り組みを昨年度より始められ『実効力ある経営』認証評価制度の最初のステップで認証取得された3つの企業の表彰を行いました。表彰の様子とこの3社からの感想などを紹介させていただきます。

マネジメント強化プログラムとは…

組織の「実行し成果を出す力」を段階的に高めるためのプログラムです。自らが過去の経営結果、マネジメント、戦略を段階的に振り返り、マネジメントや戦略的思考の課題を発見します。発見した課題を踏まえ新たな戦略、アクションプランづくりを行い、半年間の実践活動を行います。決めたことを実践し、成果を出すことのできた企業を認証する制度が『実効力ある経営』認証評価制度です。（運営：（公財）日本生産性本部）

山本 知美

ビジネス・コンサルティング フォルテ 代表
 中小企業診断士 / (社) 中小企業診断協会京都支部理事
 (公財) 日本生産性本部 日本経営品質賞 審査プロセス委員会委員
 マネジメント強化プログラム 企画代表者グループメンバー



中小企業支援施策を紹介する担当職員

公益財団法人日本生産性本部
 経営品質推進センター センター長 柳本 直行 氏

セミナー風景

経営品質向上プログラムへの取り組みから「お客様、社員、ブランド力強化」の視点で常に考える組織となるために
 プライミクス株式会社
 代表取締役 古市 尚 氏

平成24年度 ものづくり企業
 『奈良県企業 技術高』

中小企業の事業承継について
 奈良まほろば法律事務所
 代表弁護士 下村 敏博 氏

マネジメント強化プログラム実践企業体験談 収穫は「新たな発見」と 「P・D・C・A サイクルの大切さ」

経営品質向上に向け公益財団法人日本生産性本部が開発したマネジメント強化プログラムの活用と実践を経て、『実効力ある経営』認証を受けた県内企業が認証後の感想やそれぞれの気づき、苦労した点などについて対談を行いました。

山本 『実効力ある経営』認証評価「導入認証」おめでとうございます。半年間の実践期間を終えられての感想を率直にお話いただけますか。

吉岡 弊社は、海外取引先の開拓、生産体制の強化、人材育成についてのアクションプランに取り組みました。海外取引先の開拓については、相手のあることから、苦戦したところもありますが、取り組みの中で、今後、弊社が注力すべき領域や果たすべき役割について新たな発見がありました。今まで当然だと考えていたことが実際には違っていたり。明確な意図を持って活動を行えば行うほど、活動を通じて発見することも多いということを実感しました。

櫻井 労働集約型のIT業界共通の課題でもある高い人件費率と個人任せのワークフローが弊社でも問題になっていました。弊社はここにメスを入れることで、案件ごとの採算性の明確化とワークフローの標準化という成果を得ました。それ以外にも、活動を通じて商談ルールが明確になったり、ターゲット層についても認識が変わるなど、将来につながる気づきがありました。

君岡 確かに認識の変化や気づきがありました。特に研修会中に行った「過去のマネジメント・戦略の振り返り」での衝撃は大きかったですね。後継者として経営全体に関心を向けて取り組んできたつもりでしたが、見えていなかった視点の多さに気づきました。全体最適は重要と考えていましたが、改めてロジカルに振り返ってみると実際にはできていないことも多かったですね。

山本 経営品質向上プログラムやマネジメント強化プログラムでは、「気づき」を重視しています。他人に指摘されるよりも、自ら気づいた問題意識が経営革新にとって重要。

「自分たちの活動を自己評価し、改善・革新の課題を発見する」ということです。これはPDCAのC（評価・振り返り）やA（改善・革新）の質に関わってきます。質の高いC、Aは、改善だけでなく革新（イノベーション）を生むという考え方です。革新（イノベーション）は世の中の変化に対応していくために不可欠な要素で一般的に新たな技術やノウハウを指す事が多いと思いますが、マネジメント強化プログラムでは、いかにすぐれた技術もノウハウもすべて顧客価値に基づいている事が前提となっています。この顧客価値を生むための様々な活動について、自社はPDCAサイクルをどのように回して来たのかを振り返るからこそ、次の活動がより顧客価値を生むたに有効な活動へと改善されていきます。

吉岡 PDCA と言えば、マネジメント強化プログラムの実践段階では、1 か月単位で



対談風景

PDCA を回していきます。毎月、実践したことや振り返りで気づいたこと、次月に向けての課題を記述していくのですが、アクションプラン1つにつきシートが1枚。シートを見れば毎月、何を実践し何を考えていたのかが一目瞭然。これが新鮮だった。時系列で毎月のPDCAを見ることで自身のマネジメントの傾向が見えてきました。
櫻井 弊社の場合、実践3か月目に想定外のことが起こりました。そのため、継続が困難なアクションプランも出てきたこともあり、今回は実践を断念しようとも考えました。しかし、支援センターのスタッフの皆さんのフォローもあり、計画倒れに終わらずに済んだ。実際の事業活動では様々なことが起こります。そのような場合でも状況に応じて計画を修正しながら重要な活動をやりきることの大切さを実感しました。実践の中でマネジメント力というのは上がった

ていくのだと思います。

君岡 弊社も途中で状況が変化し、活動内容の修正を行いました。計画にあまりに固執しすぎると商機を逃したり、顧客本位でなくなってしまう。目的から見て行動を修正することが重要ですね。これは、計画倒れや計画のすり替えとは異なります。

吉岡 基本的なことですが、決めたことを実行する。そして、実行してみて間違っていたら修正するシステムは大事ですね。企業が永續するために不可欠だと思います。

山本 今回『実効力ある経営』の認証を受けられましたが、この制度には3つのステップが設定されていますので今回の3社の方には是非、次のステップを目指していただきたいと思います。そして経営品質向上の考え方をともに自己革新能力を高めていただきイノベーションを実現される事を期待したいと思います。

葛城工業株式会社

代表取締役 / 吉岡 弘修
創 業 / 1974年3月
資 本 金 / 2,000万円
従 業 員 数 / 85名
事 業 内 容 / 建築金物の製造販売、ユニットバスルーム・システムトイレ向けの組み立て用部材の製造・販売、水処理装置の製造
所 在 地 / 北葛城郡広陵町沢 338
電 話 / 0745-56-6335
F A X / 0745-56-3112
U R L / <http://www.ktrg.co.jp>



代表取締役 吉岡 弘修 氏



君岡鉄工株式会社

代表取締役 / 君岡 誠治
創 業 / 1973年2月
資 本 金 / 1,000万円
従 業 員 数 / 21名
事 業 内 容 / 鋼管杭オリジナル製品「くい丸」の製造販売
所 在 地 / 奈良市蘭生町 780
電 話 / 0743-82-0666
F A X / 0743-82-1925
U R L / <http://www.kuimaru.com>



営業部長 君岡 鉄兵 氏



テクツ株式会社

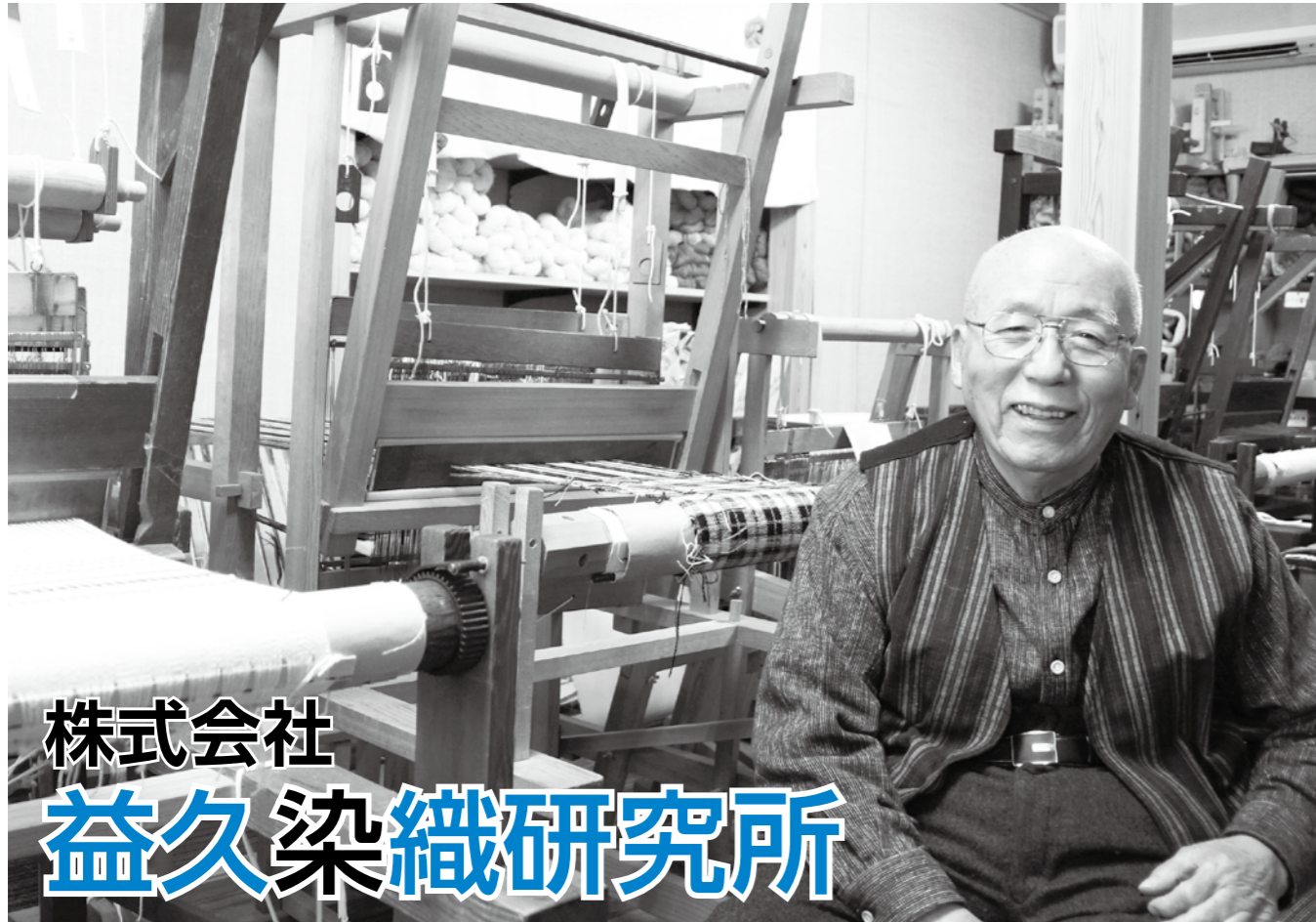
代表取締役 / 櫻井 大輔
創 業 / 2006年6月
資 本 金 / 250万円
従 業 員 数 / 5名
事 業 内 容 / ホームページ制作、WEB開発、ホームページWEB活用コンサルティング、リーフレット・カタログ・チラシデザイン制作
所 在 地 / 奈良市二条町 2丁目 7-1
電 話 / 0742-35-7277
F A X / 0742-35-7299
U R L / <http://tctu.co.jp>



代表取締役 櫻井 大輔 氏



"気になる会社" 訪問記



株式会社 益久染織研究所

生涯現役がモットーの廣田益久社長

農林漁業者と中小企業者が連携し、奈良県の良質な農林水産物等を活用した新商品や新サービスの開発、販路開拓などを支援する「なら農商工連携ファンド助成金」。農林水産業と商業・工業等の産業間の連携による創意工夫を凝らした新商品開発に対して支援を行い、地域経済の活性化を目的とした制度です。今回はこの制度を利用し、柿の葉を使った抗菌ふきんの開発に成功した株式会社益久染織研究所に伺いました。

自然と共存するものづくり

綿を作って、手で紡いで織りなす布製品に頑なにこだわる株式会社益久染織研究所。自社ブランド商品は布巾などのキッチン用品から、肌着やストールなどの衣類まで多岐に亘ります。店舗やネット販売で益久ファンを増やし、現在では全国に1万人の顧客を持つまでとなりました。

しかしその歩みは決して平坦なものではありませんでした。廣田益久社長は17歳から家業の織物工場に従事し、その後独立。紡績・販売を手掛け、順

調に成長していた矢先、取引先倒産により大口債権生じ二つの会社を譲渡、一つの会社を売却し債務を整理。その折、出張先の新潟の藍染め工房で「自然の色」に出合った社長は、「まったくの偶然でしたが、時代と逆行するようなものづくりに驚いた」と話します。大量生産、大量消費が当たり前となっていた高度成長期真っ只中の日本で、「このままではあかん。自然と寄り添い、自然に還る商品を作る。自分の『手』で作り、紡いで、織る」。苦い経験から得た社長の強い思いでした。

時代と逆行するこの行為に周りから驚きの声が上がりましたが、親しい仲

間からの応援もあり、手織り教室を開き、店舗を設け、現在に至ります。今では紡績機では表現できない自然な風合いの布や、無農薬にこだわったコットン素材の商品が益久染織研究所の代名詞となっています。

柿の葉染めの“抗菌和紡ふきん”を開発

メイドイン奈良のオリジナル商品を作りたいという同社と、柿の産地である御所市の葛城柿部会とがタッグを組んで開発した“抗菌和紡ふきん”。柿渋に抗菌作用があることは知られてい

ますが、柿の葉はどうかと、公的機関に検査依頼した結果、柿の葉にも抗菌作用があることが判明。なら農商工連携ファンド助成金を利用し、抗菌作用が期待できる和紡ふきんとしての製品化に成功しました。



柿の葉染めの抗菌和紡ふきん

これまで、同社商品は中国山東省の契約農家で栽培された無農薬のオーガニックコットンを使用し、奈良の商品と謳いにくい背景がありました。また、高齢化が進む御所市の柿農家にとっても、柿の実の収穫は重労働でしたが、葉の収穫なら負担は軽減されると、互いに手を取り合うことになりました。

老竹色の柿の葉から色素を抽出し、一枚一枚でいねいに手染めした布巾は、優しい色目で自然の恵みを感じます。「手で紡いだ糸は表面が凸凹しており、その摩擦効果によって洗剤などを使わなくても食器洗いができ、肌にも環境にも優しいです」と社長は話します。

東京ギフトショー出展と東京出店

同社は、2月6日から東京で開催された東京インターナショナル・ギフトショーにおいて、県内10社合同の奈良県ブースに出展。「柿の葉×人の手×先人の知恵」をテーマに、抗菌和紡ふきんやオリジナル商品“あしごろも”などを出品し、来場者の注目を集めました。



東京ギフトショーでの同社展示スペース

また、2月7日には、東京・中目黒に出店。東吉野産のスギとヒノキ（間伐材）を使用した店舗には、糸や布などの素材に加え、衣料品やカーテンなどの商品のほか、店内の一角に奈良県コーナーを設置。アンテナショップとしての役割も期待されています。

環境に負荷をかけない自給自足の村を

自然に優しい布商品にこだわってきた同社。今後はこれまで培ったノウハウを活かし、斑鳩町に自給自足の村を作ることを模索しています。斑鳩町といえば、法隆寺を筆頭に観光の名所となっていますが、今はまだ「点」でしかなく、観光客は滞在せずに帰ってしまうケースがほとんどです。そこで、滞在型観光を提案していくためにも、同社では染め織体験ができる宿泊施設を設け、自給自足の素晴らしさを多くの人に伝えていきたいと考えています。そうすることで、地元の雇用創出につながり、循環型社会にも貢献できればとのこと。

既にこの足掛かりとして、5年前から地元で荒れた畑を耕し、綿の栽培を始めており、今年は20アールの畑を借りて農業を進めていくそうです。そして社長は話します。「環境に負荷をかけない自給自足の村の村長、それが私の夢です」と目を細めました。



染色を行う前の準備として、精練（綿分・脂分などを取り除く）という作業があり、糸が絡まないように“ひびろり”という、糸を束ねることを行います。



天然染料染めを行う為に、染液をつくります。草や木をくわつくと吹き出し、色素を抽出します。



2月7日にオープンした東京・中目黒店

株式会社益久染織研究所

代表取締役社長 廣田 益久

設立 / 1994年10月

資本金 / 1,000万円

従業員数 / 24人

事業内容 / 糸、布、衣料など繊維製品各種の企画・製造・販売

所在地 / 生駒郡斑鳩町法隆寺南 3-5-47

電話 / 0745-75-7714

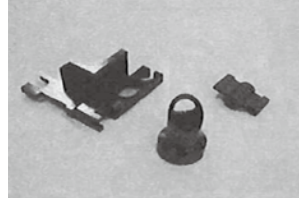
F A X / 0745-74-6110

U R L / <http://www.mashisa.jp>



大人の 社会見学

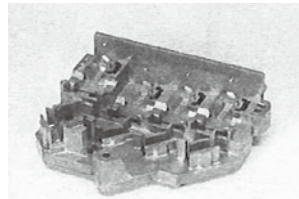
桜井市にある医療機器や光学機器、OA機器の部品メーカーの奈良精工株式会社。これまで、「サポイン事業」認定や「なら発オンリーワン技術」認定、「中小企業総合展 JISMEE2012」で最優秀賞を受賞するなど、話題がたくさん。4月にはドイツ・ハノーバーでの見本市に出展予定の同社を訪れ、元気の秘訣を伺いました。



光学機器部品



人工股関節



加工レスダイカスト



加工レスダイカスト製作への苦労を話す中川博央社長

部品加工の ベストパートナーとして

1968年、光学機器部品加工メーカーとしてスタートした同社は、光学機器部品やOA機器部品の製造によって豊富な経験と実績、加工技術を蓄積してきました。近年は、従来製品に加え、新規設備の導入とともに独自技術を駆使し、1996年より構築してきた医療分野への取り組みを加速させています。また、2005年には第一種医療機器製造販売業許可を取得。歯科用骨内インプラント材等の開発や人工関節、手術器械等のOEM受注生産など、医療部品製造の展開を進めるとともに、医療機関との共同開発にも取り

組み、医療機器メーカーからの受注も増えているといいます。「現在は難削材を含む各種精密機器部品の製造を通じて品質、精度の極限に挑戦しています」と社長は話します。

サポイン認定「難削材の 高精度加工技術の開発」

平成22年度戦略的基盤技術高度化支援事業として、難削材の高精度加工技術の開発に取り組んだ同社。「簡単に言うと、真ん丸のものを真ん丸に加工し、それを測定する技術を構築すること」と社長は説明します。「人工股関節などの医療部品は、接地面がすり減り、体内に素材の粉じんが残ってし

まうため、手術後20年で20%は再手術という現状を何とかした」と研究のきっかけを振り返ります。また、航空機に使われるスフェリカルベアリングにおいても同様に、チタン合金による耐久性向上が望まれていました。

そこで、当センターと研究機関、アドバイザー機関とが連携をとりながら、医療部品や航空機部品における球面潤滑面の高精度加工技術の開発と安定した測定技術の確立に取り組んだ同社は、「中小企業でこのような開発に



人工股関節



スフェリカルベアリング

携われるのはサポイン認定による補助金のおかげ。商品化、実用化にはまだまだハードルがあるが、ものづくりにおいては、このデータを持っていること自体がプラス」と、さらなる研究開発に期待が寄せられます。

なら発オンリーワン 製造技術に認定

同じころに同社の加工レスダイカストと医療系チタン部材など、難削材の精密加工技術が「なら発オンリーワン製造技術」に認定されました。きっかけは通常2ヶ月程度必要な金型製作において、納期1ヶ月半の注文が舞い込んできたこと。しかも、従来製品に比べて要求精度が高く、マイクロ単位の穴が必要な加工レスの製品でした。ユーザーとしては、後工程が不要な加工レスダイカストによって、作業時間やかかる費用を抑えたいところ。この難題を社員一丸となって乗り越えると、噂を聞きつけた別の会社からも似たような注文が入ったといいます。「加工レスダイカストの加工技術と同時に、金型をマイクロ単位で修正する技術も必要。あと数ミクロンという誤差にも対応できなければいけない」とし、「お客様にかかるコストが下がるように、そしてより良い製品になるようにと、提案力を持って対応させていただ

いた」と当時を振り返ります。

JISMEE2012で 最優秀賞を受賞

国内最大規模の「中小企業総合展 JISMEE2012」が昨年10月、東京ビッグサイトで行われ、国内外から約800社が出展。ブースの装飾や担当者の説明力などが優れているとされ、同社は最優秀賞（ベストプラクティス賞）を受賞しました。副賞として、今年4月にドイツで開催される世界最大規模の国際産業見本市「ハノーバー・メッセ2013」への出展権を得ました。

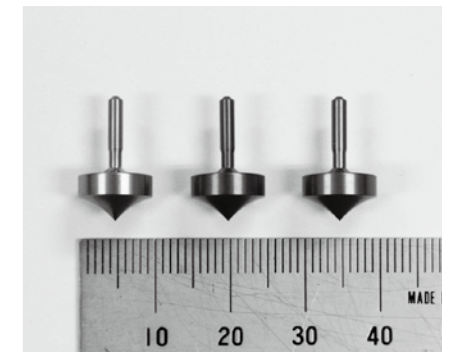
「中小企業総合展 JISMEE2012」でのブースデザインは社長自身が行ったもので、同社のイメージカラーである緑を基調としたシンプルで見やすいレイアウトに。また、これまで破棄するしかなかった廃材を利用し、同社の技術で作った「小さなコマ」を粗品として配布。「訪れたお客様との会話のきっかけづくりに一役買いました」と社長。さらに、英語が堪能な説明員を配置するなど、独自の取り組みが評価され、「このような名誉ある賞をいただけるとは思わなかった。ドイツでも弊社のオンリーワン技術を世界に発信していきたい」と目を輝かせています。



同社のイメージカラーである緑を基調とした見やすいレイアウト



最優秀賞を受賞し、ドイツ・ハノーバーでの見本市の出展権を獲得



チタンでできた直径10mmの小さなコマ

奈良精工株式会社

代表取締役 中川 博央

設立/1968年11月

資本金/3,000万円

従業員数/41名

事業内容/医療機器、光学機器、OA機器、輸送用機械器具等の製品及びその部品の製造

所在地/桜井市小夫3681

電話/0744-48-8511

FAX/0744-48-8244

URL/http://www.nara-seiko.co.jp



心強い！ 4つの金融機関が中小企業をバックアップ 県内金融機関のサポート体制

南都銀行 NANTO

所在地 (本店) / 奈良市橋本町 16 番地
TEL / 0742-22-1131
URL / <http://www.nantobank.co.jp>

南都銀行は、地域金融機関として地域経済の活性化への様々な取り組みを行っています。

バリュー開発部では、地元企業に対する多様な金融・相談サービスを通じて、専門スタッフがソリューション営業（課題解決型営業）を展開しております。

その一環として、平成 24 年 11 月 21 日に「ビジネスマッチングの精度向上」と「アジアマーケットへの進出サポート」をコンセプトに「ナント元気企業マッチングフェア 2012」を開催しました。同フェアでは前身のビジネスフェアより対象業種を拡大、取引先や行政・大学等 202 先の企業・団体が一堂に会し自社製品・サービスを P R し、来場者数は昨年を上回る 3,700 人に上りました。商談コーナーでは初参加となる 11 社を含む 32 社のバイヤーが参加し、前回は大きく上回る 820 件の商談が行われました。当行ではフェア後も個別商談や「WEB ナント元気企業マッチングフェア」の利用を促進し、マッチングのサポートを継続的に進めています。また、今回新たに「海外展開サポートプラザ」を設置し、ジェトロや香港貿易発展局といった専門 10 機関が展出し、海外販路開拓

を中心とするニーズに対し多数の相談が寄せられました。

当行では「ナント」元気企業マッチングフェアだけでなく、取引先からの個別相談に対する支援の強化に取り組んでおります。ビジネスマッチングに関しては、販路拡大や技術開発等のニーズに対し、当行の店舗ネットワークや産官学連携を活用し、様々な課題解決策の提案を行います。

アジアを中心とした海外ビジネスの展開や貿易・為替取引に関するご相談に対しても、香港および上海駐在員事務所と連携しサポートいたします。平成 24 年 9 月に中国上海市で過去最



「ナント」元気企業マッチングフェア 2012」には 202 社/団体が参画し、大勢の人で賑わった。

大規模の「日中ものづくり商談会」(7 回目) を開催、12 月には中国広東省深圳市にて中国華南地域 (香港・広東省) で初めてとなる同商談会に取り組み、共に多数の方に来場頂きました。進出ニーズが高まる東南アジア向けビジネスに対しては、平成 24 年 7 月にインドネシアの国有銀行バンクネガラインドネシアと提携、12 月にはタイ最大手のバンコック銀行へ行員を派遣し、さらに平成 25 年 2 月頃にベトナムの大手邦銀ホーチミン支店へも行員を派遣する予定であります。また、(独) 日本貿易保険など外部機関との業務提携も積極的に推し進め、より一層のサポート体制強化に取り組んでいます。



今回新たに設置した「海外展開サポートプラザ」には多数の来場者から様々な相談が寄せられた。

大和信用金庫 YAMASHIN

所在地 (本店) / 桜井市桜井 281 番地 11
TEL / 0744-42-9001
URL / <http://www.yamato-shinkin.co.jp>

大和信用金庫は地域金融機関として、課題解決型金融への取り組み等を通じて、地域の活性化や地域の持続的な発展を目指しています。そこで課題解決型金融の強化とコンサルティング機能の発揮のため、平成 23 年 4 月 1 日より「ビジネスサポート部」を設置しました。中小企業の財務体質改善を目的に、専門のスキルを持った職員による個別の経営指導を行っています。中小企業金融円滑化法が平成 25 年 3 月末をもって終了しますが、貸付条件の変更や円滑な資金供給等の中小企業支援策に努めるという当金庫の取組みスタンスは、終了後も中小企業支援のため何ら変わることがありません。とくに貸付条件変更先等の個別の経営指導では、経営改善計画書の策定を通して借り手の経営課題に応じた最適な解決策を借り手の立場に立って提案し、提案後も十分に時間をかけて財務体質改善の支援を行っています。

また当金庫では、地元中小企業をサポートするためビジネスに関わる様々な情報を発信しています。平成 24 年度においては「大和信用金庫ビジネスセミナー」を開催し、経営者の関心の高い「事業承継」や「労務管理」をテーマに弁護士・税

理士が専門の分野について分かりやすく講演していただきました。毎回多数の中小企業経営者がビジネスセミナーに参加され、熱心に講師の説明に対し耳を傾けていました。平成 25 年度は若手経営者に経営ノウハウを学んでいただく「若手経営塾」の開催を企画しています。

さらに、当金庫では取引企業の販路開拓、ビジネスマッチングの機会を提供するために地元商工会議所と連携し、「ビジネスディール」や「ものづくりメッセ」などの商談会の後援、協賛も行っていきます。商談会の運営委員会に参画し、当日の商談会の受付案内等のスタッフ応援や取引先企業に出展依頼をするとともに、当金庫も一緒にブース出展し、経営上のご相談を受けています。

平成 23 年 4 月より当金庫を含む近畿圏内の 13 信金とともに新たなビジネスマッチングモデルとして「信金 P L U S + 事業」に取組んでいます。大手メーカー企業は新製品の開発に必要な技術課題をだれにもまねできない中小企業の「ものづくり」技術に求めています。その大手メーカー企業との技術課題に対応し得る技術を持つ中小企業を発掘してマッチングさせていま

す。中小企業のきらりと光る「ものづくり」技術を活かし、大手企業との新商品の共同開発、中小企業の販路開拓を実現させるためにマッチングのお手伝いをしています。

今後、当金庫は地元中小企業のために経営のサポート体制をさらに充実させ、様々な経営のご相談に親身に答えていきます。



ビジネスディール (商談会) に出展。地域金融機関としての P R を行うとともに、中小企業経営者の経営相談に応える。

「事業承継」をテーマにビジネスセミナーを開催。多数の中小企業経営者が参加し、熱心に講師の説明に耳を傾ける。

資金繰りや起業時になくてはならないのが金融機関。

でも融資だけが金融機関の仕事ではありません。

奈良には 南都銀行、大和信用金庫、奈良中央信用金庫、奈良信用金庫という

4 つの地元金融機関が、地域の中小企業をあらゆる方面からバックアップ。

ここでは、その主要な取り組みを、最新情報とともにお届けします。

奈良中央信用金庫 CHUSHIN

所在地 (本店) / 磯城郡田原本町 132 番地 10
TEL / 0744-33-3311
URL / <http://www.narachuo-shinkinbank.co.jp>



平成 24 年度ちゅうしんビジネスクラブ経営セミナー

奈良中央信用金庫は、昭和 23 年の創業以来、「地元の皆様とともに地元の発展に貢献する」という理念の下、協同組織の金融機関として、主に預金と融資を通じて社会的役割を果たしてきました。特にビジネスに役立つ研究会等のイベントを積極的に行うことで、取引先企業や地

元中小企業に多彩な情報発信を展開しています。昭和 63 年に発足した「ならちゅうしん経営研究会」では、企業経営をテーマとしたセミナーや視察を実施。現在、33 社が会員企業として登録され、月に一度開かれるセミナーに参加しています。また、平成 3 年には「ちゅうしんビジネスクラブ」を発足。ビジネスパートナー探しや販路の拡大を目的とした同クラブは、他業種との情報交換の場として幅広く活用され、今では会員企業が 300 社を超えるまでに成長。お取引企

業のニーズへの対応はもちろん、経営課題の解決にもお客様と一緒に取り組んでいます。同クラブ専用のホームページ <http://www.shinkin.co.jp/businessclub/>。

また、平成 20 年には「ちゅうしん地域中小企業振興助成金制度 (愛称: グッドサポート)」

を創設。創業 60 周年を機に、地元の中小企業の応援団として県内での企業、新事業を目指す中小企業に対し、利益の 1% を充当する育成支援目的の助成金制度を設けました。毎年、この助成金制度は継続しますので、募集の際は奮ってご応募ください。



平成 24 年度の第 5 回グッドサポートの募集リーフレット

奈良信用金庫 NARASHIN

所在地 (本店) / 大和郡山市南郡山町 529 番地 6
TEL / 0743-54-3111
URL / <http://www.narashin.co.jp>

大和郡山市の指定金融機関でもある奈良信用金庫は、お客さまに信頼され、親しまれる金融機関として「お客さまと共に繁栄し、発展する」という理念のもと、地域に密着した信用金庫だからこそできる地域への支援活動を行っています。

例えば、全店に設置したご相談窓口では、必要な資金のご相談だけでなく、事業性資金や住宅ローンの返済条件変更など、気軽にご相談をいただけます。

さらに、近畿経済産業局から上級アドバイザーを迎え、事業先への無料巡回相談を実施しております。

加えて、幅広く経営者へ最新の情報を発信し、課題解決への糸口を見つけるため、各界の専門

家を招いた「ならしん経営者セミナー」を積極的に開催しており、多くの企業経営者が参加されています。

また、平成 23 年 10 月に地域連携協定を締結した奈良県立大学と協力し、観光振興をテーマに「なら観光シンポジウム」をこれまでに 3 回開催し、産官学各界から多くのご参加を得て、「奈良」地域活性化の議論を展開し、観光マインドアップを図りました。

現在も引き続き、地域の主体である行政、信用金庫の中央機関である信金中央金庫等と連携し、引き続き「観光ワーキングチーム」への参加を通じて、各方面に観光施策を提言していく取り組みに参画しております。



ならしん経営者セミナー



なら観光シンポジウム



KCN 撮影現場

当センター金融課では、中小企業の方が経営基盤の強化を図るための設備投資を資金面で支援しています。今回はこの融資制度を利用し、県内で頑張る元気な企業をご紹介します。

株式会社 まめいた



株式会社まめいた
代表取締役 勝川 慶隆
【設立】1991年3月22日
【資本金】5,000万円
【従業員数】40名
【事業内容】家庭用品（ブラシ、スポンジなど）・ペーパー用品製造販売
【所在地】大和郡山市小泉町1384-6
【電話】0743-55-2511
【FAX】0743-55-1031
【URL】http://www.mameita.com



小規模企業者等設備導入資金制度を利用して導入した歯間ブラシ製造機



ニューヨーク国際ギフトフェアに出展し、「まめいたのブラシ」をアピール

基本開発コンセプトは オンリー・ワン

家庭用、主にキッチン用ブラシの開発、製造、販売を行う株式会社まめいた。その商品は100種類以上におよび、ほ乳瓶用やコップ用、ペットボトル用、ガスレンジ用、排水口用などのほか、トイレ用や浴室用など、その形状もさまざまに多岐にわたります。「最初はここまでの差別化ということは考えていませんでしたが、お客様からの意見をもとに、気がつけばブラシの専門メーカーになっていました」と勝川社長は話します。同社が初めて作ったブラシは、弁当箱のフタを洗うためのもの。当時、取引先との「弁当箱のフタの裏の溝って洗にくい」という何気ない会話から生まれた商品です。実際に商品をお客様に買っていただけたときは何よりもうれしかったとか。そんな同社の商品開発は、お客様のニーズと勝川社長のアイデアによるものがほとんど。「弊社の掲げる基本開発コンセプトは“オンリー・ワン”。全社員がその精神で仕事に取り組んでいます」と、オリジナル製品を生み出し続けています。

小規模企業者等設備導入 資金制度（貸与）を利用

平成16年には、小規模企業者等設備導入資金制度（貸与）を利用し、歯間ブラシ製造機を導入した同社。それまで、一部のブラシは他社から購入していたため、社内で全ての商品を生産したいという思いと、キッチンブラシとは違うカテゴリに進出したいという思いから、導入に至ったそうです。初めに実感できた効果としては、出て

いくお金が少なくなったこと。「高価格で買っていたものが、社内で作ってみると原材料費と人件費だけの負担で済む。機械を回すので社内の稼働も増えました」と勝川社長は振り返ります。現在では歯間ブラシとしてだけでなく、各種シャワーの穴用ブラシとしての需要も高まり、同社の主力商品の一翼を担っています。

「ニューヨーク国際ギフト フェア 2013 冬展」に出展

同社は、今年1月末にニューヨークで行われた「ニューヨーク国際ギフトフェア 2013 冬展」の奈良県ブースに出展。同社を含めた県内5社の合同ブースとして注目を集めました。数種類のブラシを持ち込んだ同社は3人の社員を派遣。通訳付きで商品のアピールを行いました。あまり馴染みのない商品に戸惑うバイヤーに対し、「これはキッチンブラシだよ」と説明。すると、「キュートでおもしろくていいよ」という声が多数聞かれ、「文化の違いはあるけれど、海外でも通用することが確認できたことは大きな収穫」。さらに、「“いいなあ”ではなく“買いたいなあ”という商品を作らなければ商売は成り立たないことも実感。今後の課題が見える大きな経験をさせていただきました」と、新商品開発への意欲をのぞかせました。



用途別に用意された各種ブラシ

奈良県中小企業 支援センターからの ご報告

第5回 近畿支援機関コーディネータ会議

全国でもトップレベルの優秀な技術や製品開発能力を有する県内企業では、新たに創出した新技術・新商品は特定の販路を持つものの、それ以上の販路拡大に苦慮しています。

当センターでは、県域だけでなく広域のビジネスマッチングを図るため、近畿圏の各中小企業支援機関に呼びかけ、日頃から中小企業の現場支援を行っているコーディネータ同士でのマッチング検討会議を平成23年3月より開催しています。

当会議はこれまで5回開催し、徐々にではありますがマッチングの案件が創出されつつあります。奈良県からも「無煙焼き肉コンロ用新型ヒーター」の共同開発や、自社のプレスやパンチング技術を活かした「熱可塑性樹脂材料の試作品」の加工技術開発などのマッチングが検討され、これまで47テーマのマッチング案件を発掘し、うち12件が具体的に協業を検討中です。

当初は近畿圏の各府県及び各市のコーディネータだけが参加していましたが、三重県や香川県などの近県からも参

加いただき、輪が広がっています。また、マッチング案件が進行していく中で、国の施策等の支援も検討するため、近畿経済産業局や中小企業基盤整備機構近畿本部からも参画いただいています。

日頃の支援と豊富な経験・知識で企業のことをよく把握する近畿圏の支援機関のコーディネータが、自治体の枠を越え一堂に会して、連携し、情報共有することで、効率かつ広域的なWIN・WINのB2Bマッチングの成立を図ることができます。



1つでも多くのマッチング成立へ向けて、コーディネータ間で情報交換

ITセミナー & 研修

平成24年度は新しい技術・サービスが日々生まれるWeb業界の必須トレンドを理解し、サイトを運営する中で必要な知識や、効果的な活用方法を理解するセミナーを開催しました。

また、Facebookをビジネスで利用する際のメリット・デメリットや、Webサイト&Webデザインの作成ポイントの基本から、ステップアップを目指す人向けにサイトの表現力をアップさせる方法、スマートフォンに対応したサイトを作成するために必要な知識を学習していただき、販路拡大のツールとして社内で即、実践できる研修を開催しました。

来年度も一人でも多くの方のご期待に添えるセミナー・研修を随時開催していきたいと思っております。



熱心に講師の言葉に耳を傾ける中小企業の皆さん

助成制度や各種施策情報、時の話題など盛り沢山!! のメルマガ、FAX通信をご購読ください。

① 当センターが中小企業の皆様にお届けする
お得なメルマガの定期購読をオススメします。

② FAX通信
購読料は無料です!!

『情報発見』メルマガ編 概ね月2回発行
購読料は無料です!! 是非ご登録ください。

お申込みは、直接お電話をいただくか、当センターホームページをご覧ください。



(財) 奈良県中小企業支援センターの資金で

機械設備の充実を図りませんか?

小規模企業者等設備導入資金制度 (貸与・貸付) のご案内

奈良県内の企業様【従業員 20 人以下 (商業・サービス業 5 人以下)】の創業や経営基盤の強化を図る為、設備の割賦・リース及び導入に必要なとする資金の貸付を行う公的な融資制度です。是非ご利用ください。
※なお、従業員 21 人以上 50 人までの企業については特認枠があります。



まずはご相談ください ▶ TEL : 0742-36-8311

なら農商工連携ファンド助成金

農林漁業者と商工業者が組むと 奈良から新しい何かが始まる!

Example 1

食品加工業者が地元の農家と連携して、今までなかった野菜ジャムを開発したい



Example 2

林業者と旅行業者が連携して、植林等の林業体験を軸とした日帰りや宿泊のツアーを開発したい



Example 3

地元の名産の豆を、商社と連携して海外に販売したい



(財) 奈良県中小企業支援センターでは、農林漁業者と中小企業者が連携して、県内の農林水産物を活用した新しい商品やサービス、生産方法及び販売方法を開発する場合、開発費用についての助成をおこなっています。ご興味のある方はお問い合わせ下さい。

まずはご相談ください ▶ TEL : 0742-36-8312

ご相談は支援センターへ

(財) 奈良県中小企業支援センター

〒630-8031 奈良市柏木町 129-1 なら産業活性化プラザ 3F

電話番号 0742-36-8312

FAX 番号 0742-36-4010

URL <http://www.nashien.or.jp>

平成 25 年 4 月 1 日より、財団法人奈良県中小企業支援センターは公益財団法人へ移行し、名称も「公益財団法人奈良県地域産業振興センター」に変更いたします。
新 URL は <http://www.nara-sangyoshinko.or.jp> です。

交通アクセス ご案内



- 電 車：近鉄橿原線、西の京駅下車、東へ徒歩 20 分
- バ ス：近鉄奈良駅より恋の窪町行乗車 12 分柏木町南バス停下車西へ徒歩 5 分
- 自動車：国道 24 号柏木町交差点を西折、1 つ目の信号を右折